

東部町文化協会だより

第 2 号

発行 東部町文化協会
発行月日 60.12.20
印刷 東鉄印刷(株)

文化展に憶う

東部町文化協会長 小林 進

早いもので来年は東部町が合併して三十周年になると聞き、誠に大きな節目でございます。

一口に三十年の歩みの中でも今尚昨日のように思い出される出来事を始め遠く過去のものとなり、やがては、忘れられて行くものの中にあつて「まちづくり」三十年の史実の中で私達協会も生れて十三年目でいまだ歳月は若年ですが、

協会参加の数多くの方々の結集の力により常にご指導ご鞭撻を賜り今日の多彩な面の文化活動の躍進につながっていることを思い、今後も尚一層それぞれのグループの活動の成果を高めていただき、私達町の文化の姿を立派な伝統としての位置付けが出来るべく努力を重ねていただきたいと思ひます。

今年の総合文化展が、きわめて

盛會に終了出来ましたことは、みなさま方の日頃のご活躍の成果であります、この点厚くお礼申し上げます。上げる次第でございます。展示会場の一、二の問題点につきましては今後の課題として、会場の都合上今回も作品の発表の場は必ずご出品できるよう努力します。

(新役員三役)



歌・音楽のある町

合唱 東部町混声

中村 新吾

合唱部会に現在九合唱団が加入しています。そして、町の音楽祭、合唱祭、独自の発表会、全国規模で行われる母親コーラス祭に、又合唱団の全国組織である全日本合唱連盟に加入し、その行事にも積極的に参加し、合唱音楽のレベルアップと、合唱人口の拡大にと活躍しています。

しかし、反面、任意趣味の域を出ない集団であるが故に、練習時の集まりに問題を抱えています。忙しい日常生活の中から抜け出して歌ったあとの、すがすがしい気持は合唱を知る人、合唱した人であれば味わえない醍醐味です。

合唱部会では、自分達が楽しむだけでなく、数百年にわたり演奏されている本物の音楽、なまの音楽を聴き、見ることが出来たらと、クラシックコンサートを日本を代表する一流の演奏家により開催して来ました。

昨今、上田、小諸にも文化会館が完成し各種の催しが行われています。東部町にも芸術文化の中心となる文化会館が一日も早く出来ることを願ってやみません。

自然豊かなこの町に歌声が広がることを願っています。

心の和を

人形グループ

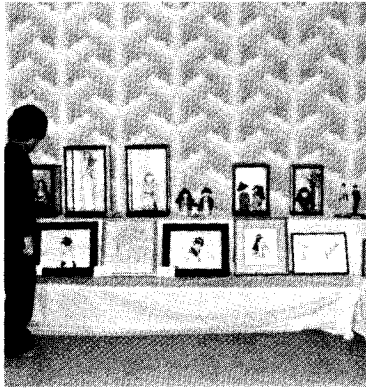
岩下 止代



人形は古くは信仰の対象として作られ祈りを捧げ幸せを願ったもので「人形おくり」なるものはその現われでした。大型物には「人形浄瑠璃」「文楽」「人形芝居」「人形遣い」「人形劇」等その表情仕様に依り人の心に深い感動と感銘を与えるものがあり、今でも継続し行われていますが、一般としては中世以後は小規模な人形が觀賞、愛玩用として発達して来ました。文化活動のその総てが生活の中に豊かな人間性が養われ、心のふれ合いに依り生き甲斐が感じられるのですが、町文化協会発足以前に同志の集りで初めた我がグループも加入退去者があります。今教養講座を終えた人達の加入で今

三十名程で月二回中央公民館で人格円満な高橋先生のご指導で続けています。出来上った人形を眺めます時思わず笑みが浮びます。例え心に苛立ちがあっても自然と心が和みます。こんな穏やかな美しい気持が持てる事は幸せと思います。ましてや製作の時は実に無心で時の立つの忘れる位。グループの人達は実に仲睦まじく、助け譲り、感謝し合うよい仲間です。

何時かしら少しずつ人は変わりますがいつまでも続き町の文化の一翼として発展に寄与し努力して行きたいと思えます。



生涯の楽しみ……

民謡 みなつき会

佐藤 一江

私達民謡グループは、今から九年前に、東上田の大塚さん宅で、小人数で初められたのが草分けで、今では、二五〇人もの大家族にな

り、町文化協会の中でも、グループ数が二番目に多いのだそうです。何も楽器を持たなくても、どこにいても口ずさみ、練習出来る事かでは？と思います。しかしやってみるとなかなかむずかしいもの

かかるとは思いません。私達は年に数回の昇級テストがあり、皆さん大変に張り切っておられます。又年に一度全員の発表会を設け、東京より家元の小沢千月先生が沢山のお弟子さんを連れて見られます。尚三年前より三味線を始められた方もあり大変上達されその数も増えつ、あります。各グループ毎に親



睦会や小旅行など楽しみも多く、私もこれから一生の楽しみとして民謡を続けて行き度いと思つてます。

菊造りの醍醐味

東部町菊花会

有賀 正衛

現在観賞菊として培養されているものは野生菊から永年改良されたものに違いあるまい往古から有る伊勢菊は関西から九州迄普及され嵯峨菊等も古い歴史を持つ様で朝鮮、中国大陸も同緯交地域に殖生されあまり南北でも殖生が少い様で原生は先進地の中国から遣唐使の往来によって持込まれた奈良朝から平安朝時代に栽培が盛んであった様で、日本では王朝時代でもつばら宮廷の御用花で古今集あたりにはつぼつ親王や女官の詩歌に菊を詠込んだものが表れて来る戦国時代に入ればそれどころではなく徳川期に成つて世が落付き將軍家等名人を招じて造らせ楽しんで様である。明治元年皇室が菊を紋章に定められ以来観菊会等各国人の招待によつて日本菊の普及と改良は見る可きものがあつた。中国は先進国ではあるが常食のコオリヤン、モロコシから小麦と米に変える事が悲願で花どころではない、菊は平和な文化国家で育つ

花の様である。味わいには五つの味がありそれを司つたのが五味姓を授けられその五つの味の中で最高の味が醍醐味で正に菊造りこそこの味であり我々心身共に健康をもたらず唯一の趣味ではないかと思いつ、町民の同好の皆様一人も多くご参加をお待ちします。



ひと刻みに心のあたたかさ

彫刻木友会

松本 梅太郎

本友会創立時は、今から六年前だと思えます。年令は三十五才から五十五才位までの間で、女性六名男子六名でした。先生は近喰先生の指導を受け、楽しく毎月二回の授業です。(今は月二回のうち一回は自由時間です。)公務員やサラリーマンの奥さん、男子は現職の方々です。初めは会の名前もありませんでした。東部町美術協会に国体加入してゆけば、何かと便

利だという話から早速会の名前を「木友会」と全員一致で賛成。最速入会しました。「木友会」は毎月第二・第四の木曜日にやるからです。

非常に楽しい会で、初歩の人でもすぐ先生は勿論のこと、仲間の皆さまがみんなまで応援してくれまので、初めての人とは思われません。

彫刻の上達が目標ですが、それにもまして昼食休みの一時間は、よも山の話しや、人間の生き方など語り合い、ほんとうに心あたたまる生きがいある時間です。女性の苦心した漬物、料理の披露はとて各家庭に役にたちました。どうぞ遅れて入会する人も、すこしも気が引けることなく、気軽に入会して下さい。おまちしています。



いけ花と共に

華道

荻原とめよ

花・花・花と生活とは喜びとも悲しみとも切り離すことのない深いつながりがある。

ある日突然の出来事に遭遇した私は希望を失い唯茫然としている頃でした。朝ぼんやり起きて何んとなしに棚のいけ花に目をやった。

その時花はニッコリ笑ってお早ようと語りかけてくれた。

アツお早よう、何のわだかまりもなく、何の憂もなくほ、えみかける花、私は突如として元気を与えられた感じがした。そうだ私にはいけ花があったんだと前にも増して「いけばな」に闘志を燃やし、セッセと研究を続け東京へまで足を延ばす様になった。

現代の生花は時代と共に大変変わってきたが先づ基礎をしっかりと学ぶ事が大事である。進むにつれ個性を活かした創作に入る・床の間に飾るだけではない。どんな処にでもどんな花器にでも自由にその空間を活かしその花材をよりよく活かし観る人に感動を与える様な生きた、いけ花をいけることだ。しかし思うにまかせず苦しむ事も多いがそれだけに又意欲も湧いてくる。私はいけばなと共に生き

る喜びを痛感する。



今 東部ニューサウンズは

東部町ニューサウンズ

竹村 義男

「東部ニューサウンズ」この名は昭和五十年十二月結成当時五人のメンバーが決めた名前です。

年々メンバーが増し現在では十四名、多種多様の職種にも拘らず練習日には全員が集まり、レパートリーは歌謡曲・民謡からジャズ・ダンスまで色々な要望に応えるため保持しようとしています。

さて、今日までに三回の独自コンサートを終了した。その都度アンケートを収集し分析した中で、特に年代層の相違による音楽色好みの隔りを感じた。だがそれに合わせるための選曲には困っている。東部ニューサウンズという名が町民に親しまれ、今後のコンサートが盛況であるためにメンバーが強

くバンドに希望することは、音楽を趣味とする者の中で楽器を通じ演奏技術の向上を最大の喜びとする者の集りとし、時代の推移の中、多くの人々の感心を集め、流行に同調することの出来るバンドとなりたいと努力しています。

当初五人のメンバーは好きな楽器で音さえ出せば満足であった。しかし今は違う、聞いて頂くための練習であり、如何に聴衆者の心を捕えるかであります。



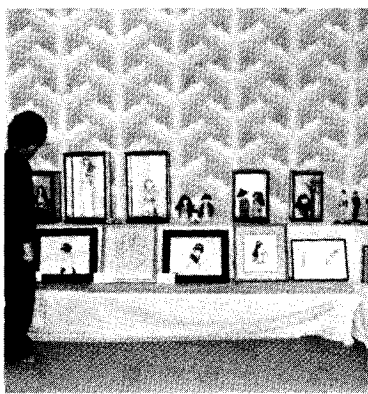
「書」

東部町書道部

柳沢 嘉代太

昔から日本の生活文化の中に書はなくてはならない存在でありましたが文明が進むにつれ書墨はわずらわしい存在となつていくことは事実です。然しながらこの伝統文化を生かしてゆかねばならないのは私達の責務であり生活の中に活

三十名程で月二回中央公民館で人格円満な高橋先生のご指導で続いています。出来上った人形を眺めます時思わず笑みが浮びます。例え心に苛立ちがあっても自然と心が和みます。こんな穏やかな美しい気持が持てる事は幸せと思いません。ましてや製作の時は実に無心で時の立つの忘れる位。グループの人達は実に仲睦まじく、助け譲り、感謝し合うよい仲間です。



生涯の楽しみに……

民謡 みなつき会

佐藤 一江

私達民謡グループは、今から九年前に、東上田の大塚さん宅で、小人数で初められたのが草分けで、今では、二五〇人もの大家族にな

り、町文化協会の中でも、グループ数が二番目に多いのだそうです。何も楽器を持たなくても、どこにいても口ずさみ、練習出来る事からは、安易に始められた方が多いのでは？と思います。しかしやってみるとなか／＼むずかしいものがかかるとは思いません。数年は私達のご教授頂いている北御牧の依田千祥先生は、大変に実力もあり、又、人間的にも皆に好かれ、心より尊敬されていらつしやる先生です。自然と会員も増えたのだと思います。私達は年に数回の昇級テストがあり、皆さん大変に張り切っておられます。又年に一度全員の発表会を設け、東京より家元の小沢千月先生が沢山のお弟子さんを連れて見えられます。尚三年前より三味線を始められた方もあり大変上達されその数も増えつ、あります。各グループ毎に親



睦会や小旅行など楽しみも多く、私もこれから一生の楽しみとして民謡を続けて行き度いと思つてます。

菊造りの醍醐味

東部町菊花会

有賀 正衛

現在観賞菊として培養されているものは野生菊から永年改良されたものに違いあるまい往古から有る伊勢菊は関西から九州迄普及され嵯峨菊等も古い歴史を持つ様で朝鮮、中国大陸も同緯交地域に殖生されあまり南北でも殖生が少い様で原生は先進地の中国から遣唐使の往来によって持込まれた奈良朝から平安朝時代に栽培が盛んであった様で、日本では王朝時代でもつばら宮廷の御用花で古今集あたりにはつばつ親王や女官の詩歌に菊を詠込んだものが表れて来る戦国時代に入ればそれどころではなく徳川期に成つて世が落付き將軍家等名人を招じて造らせ楽しんで様である。明治元年皇室が菊を紋章に定められ以来観菊会等各国人の招待によつて日本菊の普及と改良は見る可きものがあつた。中国は先進国ではあるが常食のコオリヤン、モロコシから小麦と米に変える事が悲願で花どころではない、菊は平和な文化国家で育つ

花の様である。味わいには五つの味がありそれを司つたのが五味姓を授けられその五つの味の中で最高の味が醍醐味で正に菊造りこそこの味であり我々心身共に健康をもたらず唯一の趣味ではないかと思いつ、町民の同好の皆様一人も多くご参加をお待ちします。



ひと刻みに心のあたたかさ

彫刻木友会

松本 梅太郎

本友会創立時は、今から六年前だと思ひます。年令は三十五才から五十五才位までの間で、女性六名男子六名でした。先生は近喰先生の指導を受け、楽しく毎月二回の授業です。(今は月二回のうち一回は自由時間です。)公務員やサラリーマンの奥さん、男子は現職の方々です。初めは会の名前もありませんでしたが、東部町美術協会に団体加入してゆけば、何かと便